

国内研修報告書

現在、世界でますます食糧危機や地球温暖化などの環境問題が重視されてきている中で、近年昆虫食が世界的に注目を集めています。昆虫食は家畜と比較して温室効果ガスの生産量がとても少ないことや、飼育にかかるコストが低いこと、生産効率が良いなどの環境的面でとても優れています。さらにタンパク質が豊富で体に良い成分が多く含まれているといった栄養価も高いです。私は、これらのようなメリットを多く持つ昆虫食を研究したいと思い去年も国内研修に参加させていただき、長野県の伊那市にある創造館への訪問、そしてコオロギを使用したパン、パウンドケーキ、クッキーなどの試作もいたしました。それから去年に続いて研究し、さらにこれまで学んだことをアウトプットし、形にしていきたいと思い今年も国内研修に参加し、更なる経験を積むことができました。

この度訪問させていただいた場所は山形県の社会福祉法人、山形コロニー協会さんで、私たちはこれまでコオロギを使用した商品の販売を手掛けている企業の訪問や、福祉作業所、さらにタイの昆虫食養殖場の訪問などをして積み重ねた昆虫食の学びを活かし山形県の社会問題の解決に繋がるようなサステナブルフードの商品企画を考案し、提案させていただきました。山形コロニー協会さんは就労移行支援事業を行っている就労サポートセンター、印刷工場である山形福祉工場、就労継続支援事業B型の山形コロニーセンター、放課後などのデイサービス事業を手がけている放課後等デイサービス山形コロニーシーード、共同生活援助事業所の障害者グループホーム、相談支援時事業を行っている山形コロニー相談支援センター、障害者福祉ホームのコロニーハイツ、児童発達支援事業所のういる天童など多くの事業所を持っており、山形最大の福祉作業所で私たちも実際に放課後デイサービスや福祉事業所など訪問、見学もさせていただきました。

私たちが考案し、そして提案させていただいた昆虫食の商品企画は二つあります。一つ目は、コオロギ×フルーツグラノーラです。山形県は果物の生産量が多く誇る一方、廃棄の量が問題になっています。また近年コロナウイルスの感染拡大によりお店の休業や果樹園の来場者の減少により、現在さらに生産された果物の廃棄量が増えている現状があります。そこで考えたのが、廃棄される果物や規格外品として販売されない果物の活用です。これらを乾燥させドライフルーツにし、乾燥したコオロギを砕いたものを組み合わせてフルーツグラノーラやプロテインバーにするという企画案です。コオロギのザクザクとした食感、さらにタンパク質源などコオロギ自体がもたらす効果を生かせるのではないかと考えました。二つ目は将棋をモチーフにしたお土産として手に取った人々の心を躍らせるような商品です。山形県天童市では将棋が有名で、地域独自の強みを活かすことで地元の人はもちろん訪れる観光客への宣伝効果になるのではないかと考えました。パッケージや包装紙には将棋のデザイン、そして将棋レベルに合わせてコオロギの含有量を増やしたお菓子や飴などを考え小さな子供から大人まで楽しめる商品を目指しました。これらの企画案を提案させていただき、今後事業を展開していく中でも昆虫食にもとても興味を持ってい

いただきました。私たちは、この商品を生産する過程で障がいのある方の就労支援もしたいと考えています。

また、今回企画案の提案だけでなく放課後デイサービス、印刷工場、B型作業所にも訪問させていただき、さまざまなお話も受けました。放課後デイサービスとは学校卒業後に就労することを目指している人を対象として生活能力を向上させるための取り組みで、一人一人の目標に合わせた取り組みがされています。学校が終了した放課後の15時から18時、休日は11時から18時のサービス提供時間のようです。本来幼い頃から習うことを、ある程度知識も定着してきている大人になってから学ぶのは難しいところがあるとお話しされていたことが印象的でしたが、それらの課題を乗り越えて工夫されている取り組みに感心しました。そしてB型福祉作業所にはベーカリー部門、プロダクト部門、リサイクル部門、ファーム部門の4つの部門に分かれており利用する方の希望に添い、一般就労が困難となった障がいのある方に対して知識や能力の向上のために必要な訓練を行いながら就労の機会を設けているとのことでした。実際に見学させていただくと、紙を丸めてビーズにし、プレスレットのように繋げて商品として販売されているものがあり1番印象に残りました。紙を丸めるのは障がいのある方の就労支援として行っており、その使われている紙が山形コロニー協会さんの印刷工場で余っている紙を使用しているとのことでした。今後の事業を進めていく中で、山形コロニー協会さんはただ新しい商品を作るのではなく昆虫食という環境に優しいサステイナブルフードの使用を考えたり、これまで販売している商品も印刷工場で余っている紙などを用いたアップサイクル商品であったりと今ある資源をどう活かすか、最大限に魅力を発信するにはどうした良いのかという工夫点など、それらの知識や考え方から学ぶことばかりでした。

これまで私たちは昆虫食について学び、さまざまな場所へ訪問し経験を積み、そしてこの度国内研修の場でアウトプットさせていただきました。これまでの経験を通して、障がいのある方の就労支援の大切さや、使う資源も余っているものを活用したアップサイクル、そして循環した取り組みを考えることの重要性を感じました。初めは昆虫食に知識はありませんでしたが、環境にも栄養面でもメリットが多くあるのだという好奇心から始まり去年に続き今年も国内研修に参加し経験を積み重ねた上で、実際に商品をチームで考案する中でこれまでの知識を形にすることの難しさを実感しました。しかし、昆虫食を使用するだけでなく今回のように障がい者の就労支援、山形県の社会問題解決なども視野に入れた企画案を考えることができ、多角的な面からサステイナブルな商品を考え山形コロニー協会さんへ自分たちの企画案を発表でき、障がいのある方の就労支援も強く意識していたので、実際に作業現場を見学させていただくこともとても貴重な経験で自分の力になりました。今回の経験を活かして今後も昆虫食を追求していきたいです。そして一方通行ではなくあらゆる問題を解決し、それらが循環するような考え方を意識して新しい取り組みもしていきたいです。